

Indicators Update

2012年4月11日 全7頁

2月機械受注～製造業の押し上げで、堅調な推移

経済調査部

エコノミスト 増川 智咲

緩やかながらも回復の兆候が見られる

[要約]

- **【概況】民需は2ヶ月連続のプラスで、堅調な推移：** 2月の機械受注統計は、外需が特殊要因から落ち込んだものの、民需（船舶・電力を除く）は、2ヶ月連続のプラスとなり、市場コンセンサスを上回った。緩やかながらも回復の兆候が見られると言える。均してみると、1-3月期の見通しは、3月に▲10.8%（前月比）を上回れば達成できる為、当該期見通し達成の確度が高まった。
- **【受注の主要内訳】製造業が押し上げ、外需は反動減：** 需要者別では、製造業が前月比+16.0%、非製造業（船舶・電力を除く）は同+2.3%となり、製造業が全体を押し上げた。製造業の中でも、「自動車・同付属品」は、エコカー補助金の復活や好調な米国向け自動車輸出を背景に、基調として堅調な推移を保っている。外需に関しては、前月から大きく落ち込んだ。前月の大型受注案件の反動減と考えられる。3ヶ月移動平均で見ると、前月比+1.1%となり3ヶ月連続のプラスである。
- **【今後の見通し】設備投資は、緩慢ながらも回復へ向かう見通し：** 3月の日銀短観によると、2012年度の設備投資計画は、前年度比ほぼ横ばいとなり、力強さに欠けている。生産・営業用設備判断DIでは、企業の設備過剰感がやわらいでいることが示されているが、企業は依然として、設備投資に対して慎重であるようだ。しかし、追い風も見られる。欧州財政問題に落ち着きが見られ始め、米国経済が持ち直しつつある点に加え、国内ではエコカー補助金や日本銀行による金融緩和スタンスが、今後は設備投資の回復の支えとなると予想される。

【概況】 民需は堅調な推移。見通し達成の確度も高まる

今期見通し達成の確度が高まる

2月の機械受注統計は、外需が特殊要因から落ち込んだものの、民需は堅調な推移となった。均してみると、1-3月期の見通しは、3月に▲10.8%（前月比）を上回れば達成できる為、今期見通し達成の確度が高まった。

民需は2ヶ月連続のプラス

国内の機械設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+4.8%と2ヶ月連続のプラスとなり、市場コンセンサス（同▲0.8%）を上回った。3ヶ月移動平均でも前月比+0.2%と2ヶ月連続のプラスとなっている。緩やかながらも回復の兆候が見られると言える。ただし、基調判断をするためには来月以降も注意して見ていく必要があるだろう。

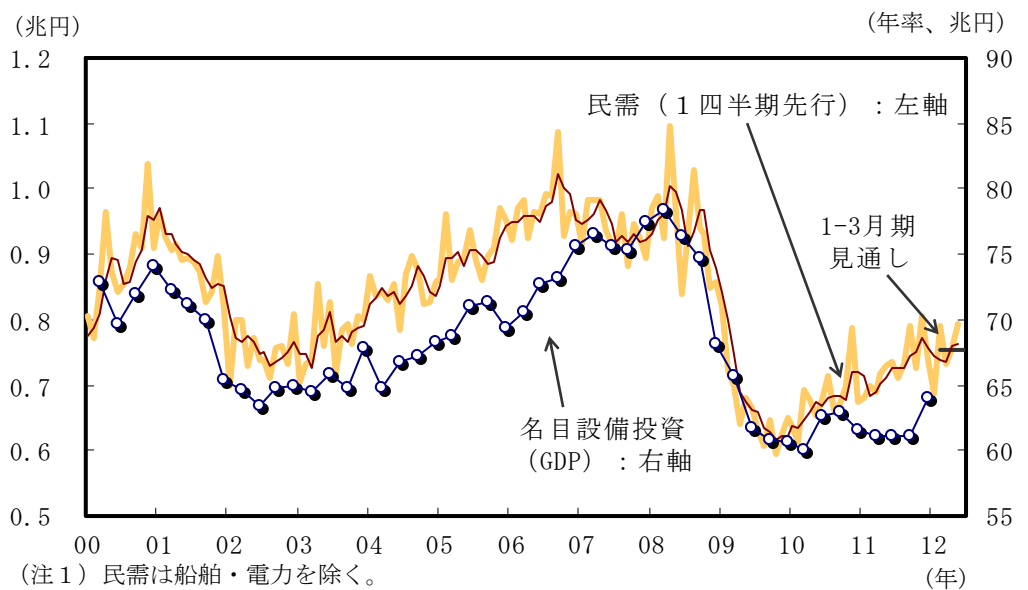
図表 1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2011年											2012年	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
民需（船電を除く）	1.0	▲3.3	3.0	7.7	▲8.2	11.0	▲8.2	▲6.9	14.8	▲7.1	3.4	4.8	
コンセンサス												▲0.8	
DIR予想												▲1.0	
製造業	▲0.8	▲2.7	▲1.4	9.3	▲5.2	13.7	▲17.5	5.5	4.7	▲7.1	▲1.8	16.0	
非製造業（船電を除く）	0.1	2.9	▲5.4	15.7	▲1.4	▲6.1	8.5	▲7.3	6.2	▲6.0	2.3	2.3	
外需	▲10.8	▲2.1	▲6.6	▲5.9	▲9.8	32.3	▲21.7	1.6	20.3	5.6	20.1	▲18.3	

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府、Bloombergより大和総研作成

図表 2：機械受注とGDPベースの名目設備投資



（注1）民需は船舶・電力を除く。

（注2）民需の太線は実績値、細線は3ヶ月移動平均値。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

【受注の主要内訳】 製造業が押し上げ、外需は反動減

製造業が大きく増加

需要者別では、製造業が前月比+16.0%、非製造業（船舶・電力を除く）は同+2.3%となり、製造業が全体を押し上げる形となった。製造業は、15業種中8業種（前月の8業種から横ばい）が前月比でプラスとなった一方で、非製造業は12業種中4業種（前月の6業種から減少）がプラスとなった。

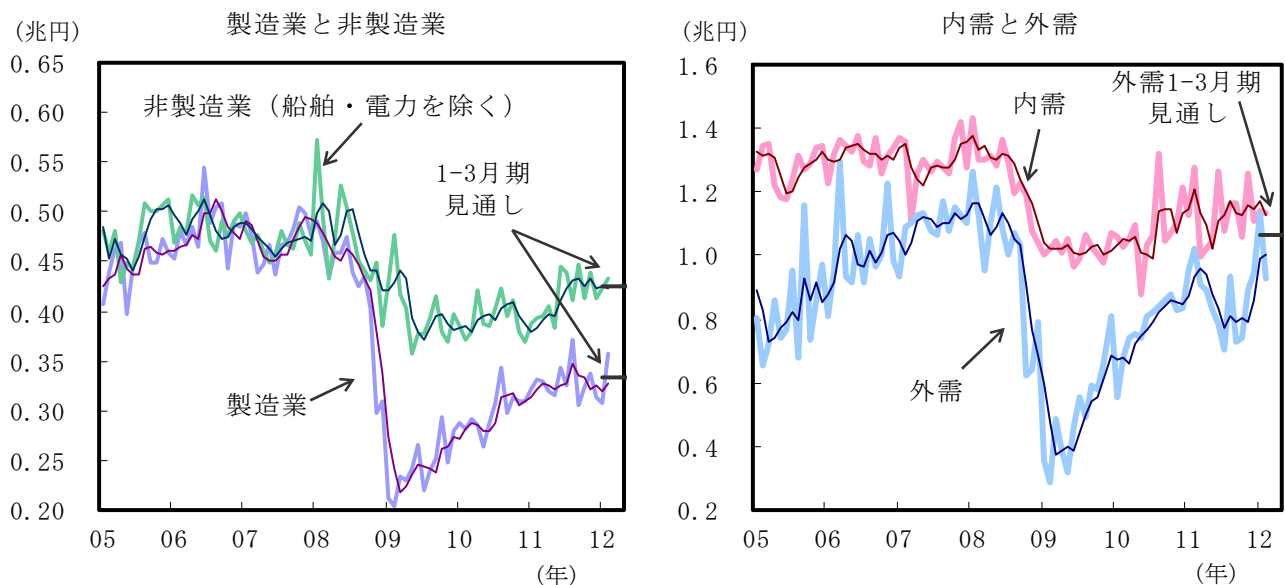
「化学工業」に大型受注、「自動車・同付属品」は堅調な推移

製造業の中でも、「化学工業」や「食品製造業」の伸びが大きかった。「化学工業」に関しては、「化学機械」の大型受注があったことが影響している。また、前月からの反動増で、「情報通信機械」「鉄鋼業」も増加した。「自動車・同付属品」は前月比▲5.7%となったが、基調としては堅調な推移を保っている。エコカー補助金の復活や好調な米国向け自動車輸出が下支えとなっていると考えられる。

外需は反動減

外需に関しては、前月比▲18.3%と前月から大きく落ち込んだ。前月は、オセアニア向けのLNGプラントの大型受注があったことから、「産業機械」が大きく増加するという特殊要因があったため、今月はその反動減と考えられる。3ヶ月移動平均で見ると、前月比+1.1%となり3ヶ月連続のプラスである。

図表3：需要者別機械受注（季節調整値）



(注) 太線は実績値、細線は3ヶ月移動平均値。

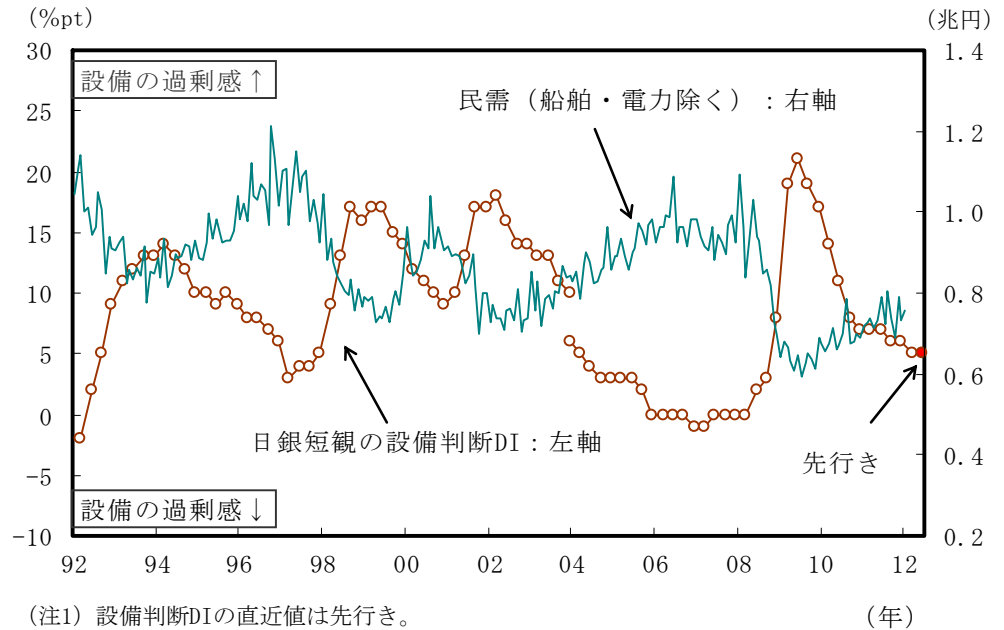
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

【今後の見通し】 設備投資は、緩慢ながらも回復へ向かう見通し

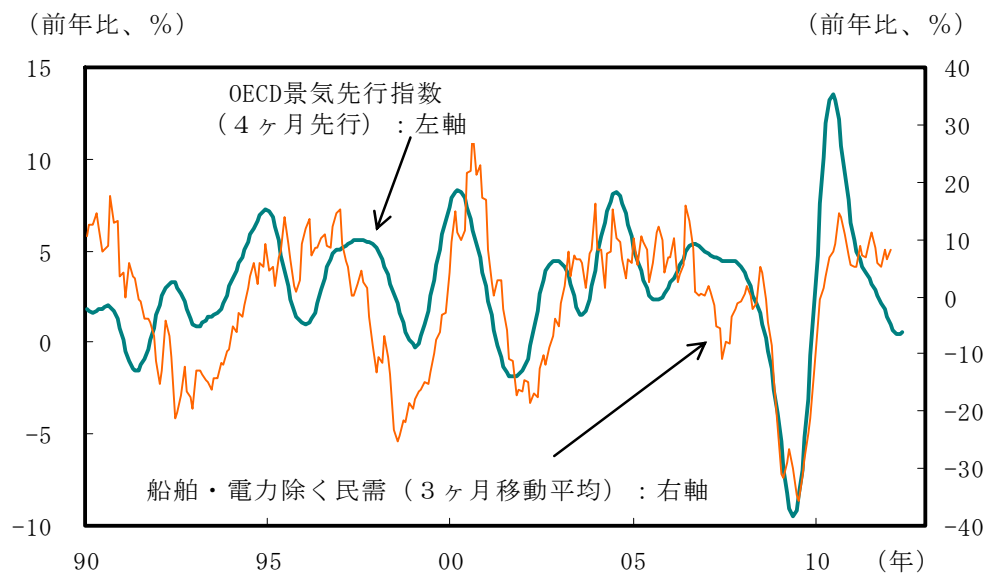
3月の日銀短観によると、2012年度の設備投資計画（全規模全産業）は、前年度比ほぼ横ばいとなり、力強さに欠けている。生産・営業用設備判断DIでは、企業の設備過剰感がやわらいでいることが示されているが、企業は依然として、設備投資に対して慎重であるようだ。しかし、追い風も見られる。欧州財政問題に落ち着きが見られ始め、米国経済が持ち直しつつある点に加え、国内ではエコカ

一補助金や日本銀行による金融緩和スタンスが、今後は設備投資の回復の支えとなると予想される。復興需要が後ズレしている点など、下振れリスクは依然残されているが、設備投資は緩慢ながらも回復へと向かうだろう。現に、民需（船舶・電力を除く）に先行する OECD の景気先行指数も、前年比で下げ止まりの様相を呈している。

図表 4：機械受注（季節調整値）と設備投資判断DI

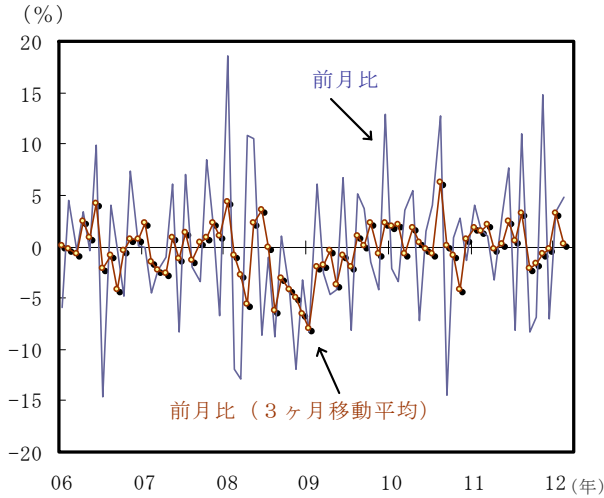


図表 5：世界景気と機械受注



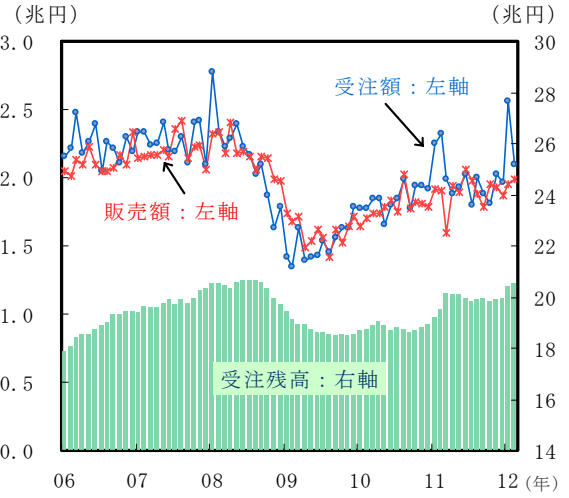
概況

民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）

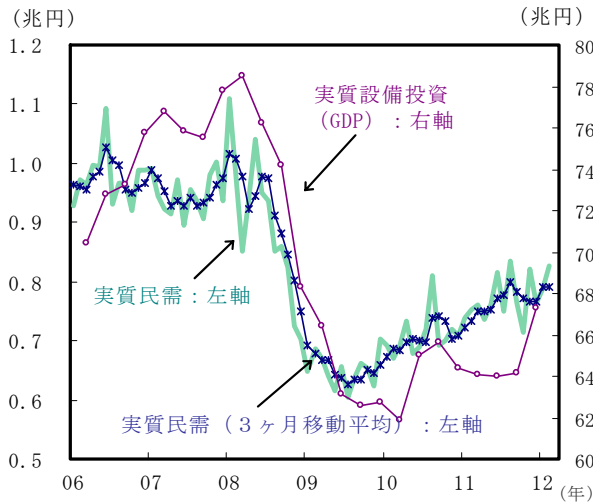


(出所) 内閣府統計より大和総研作成

船舶を除く合計（季節調整値）

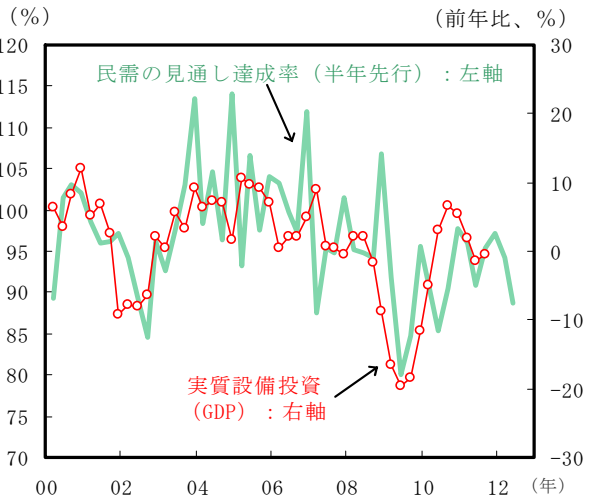


実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）

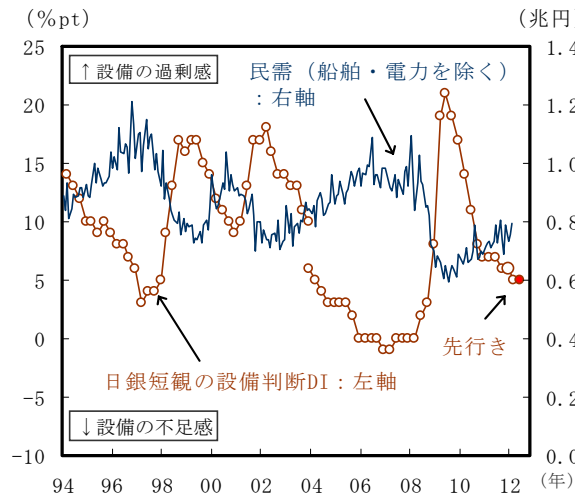


(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

民需（船舶・電力除く）の達成率と実質設備投資

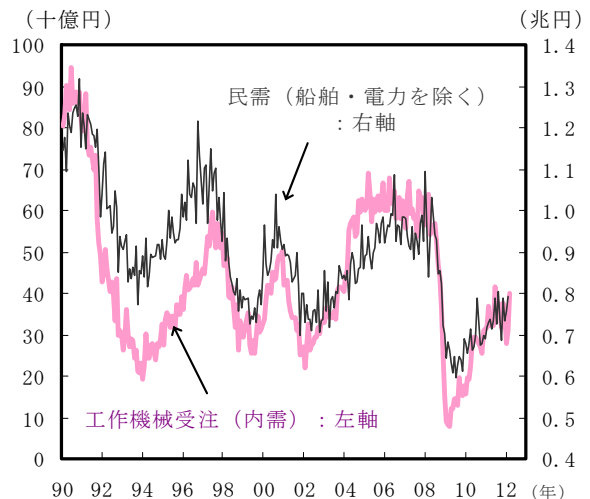


機械受注（季節調整値）と設備投資判断DI



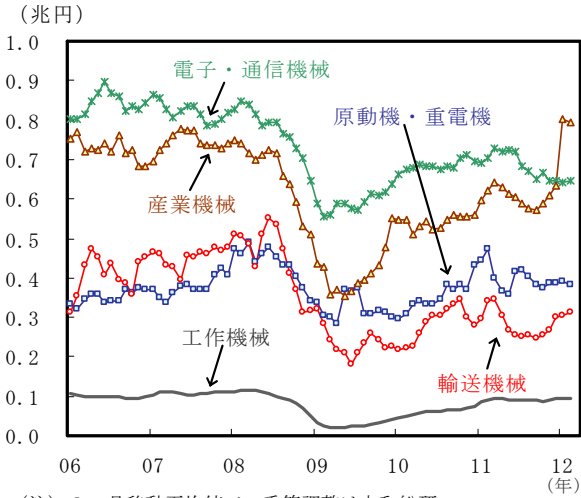
(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

機械受注と工作機械受注



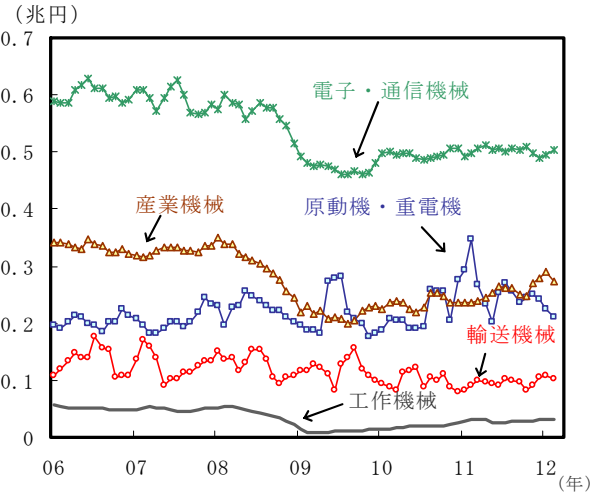
機種別と製造業・非製造業の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

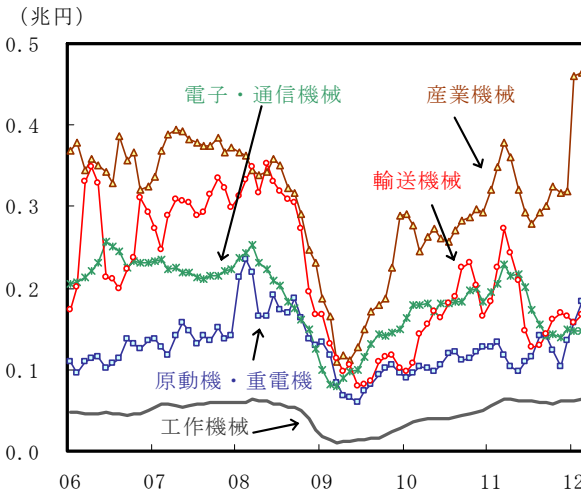


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

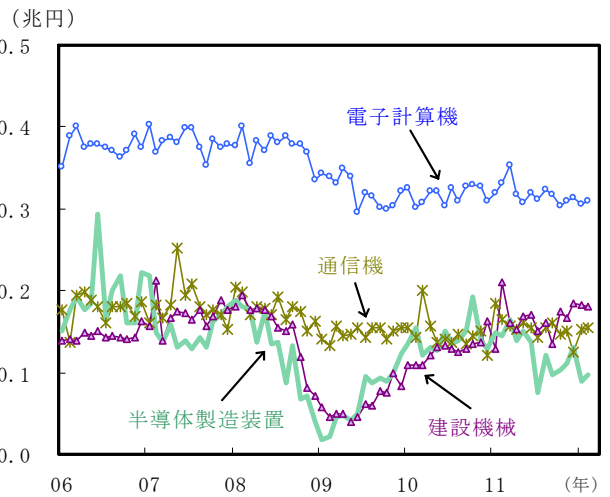


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

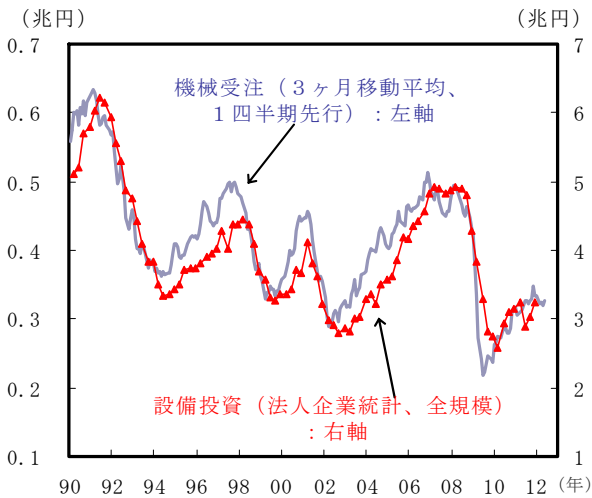


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）

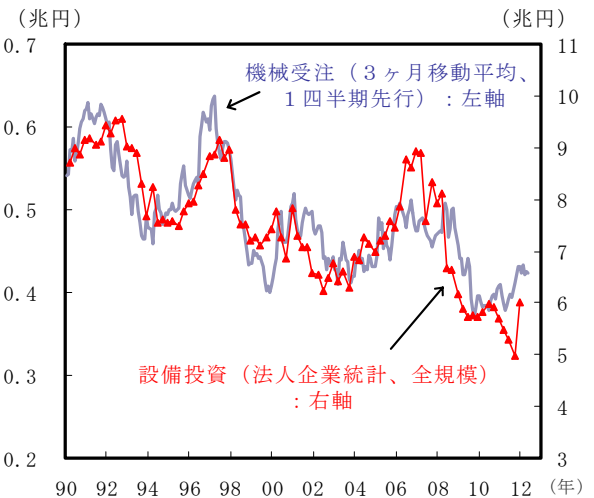


機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



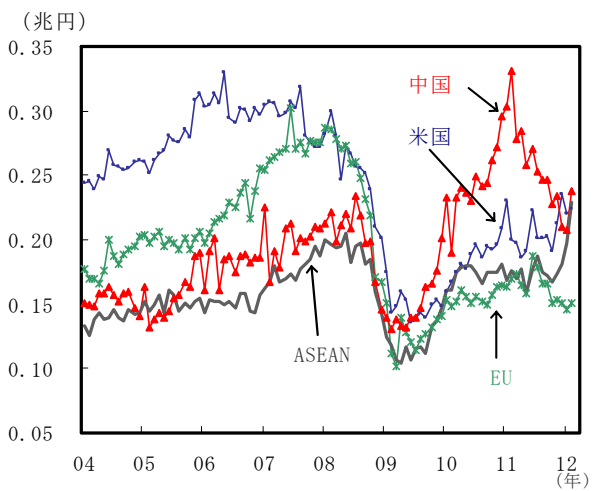
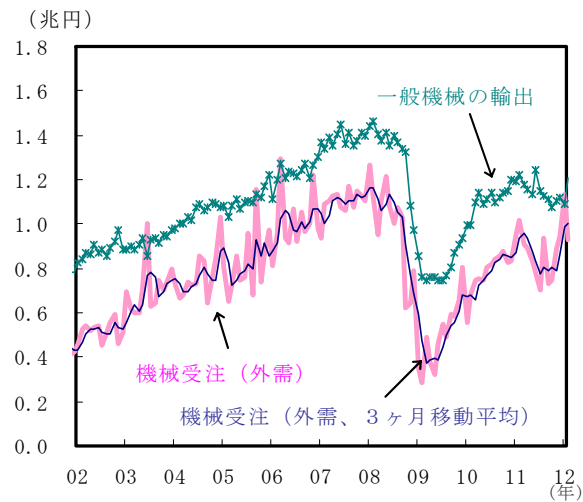
(注) 設備投資の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）



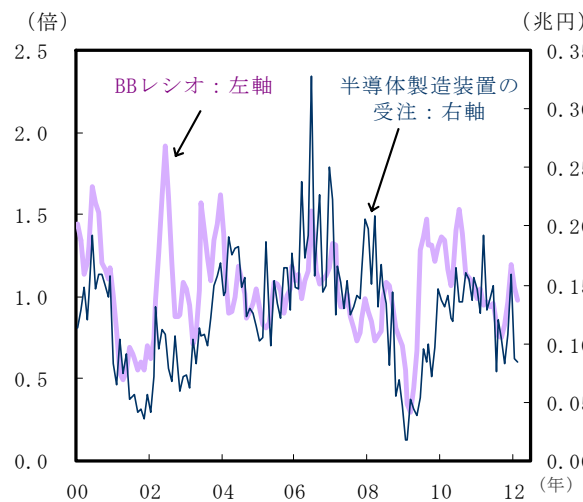
その他

一般機械の輸出と機械受注の外需 (季節調整値) 一般機械の輸出先 (主要国・地域、季節調整値)



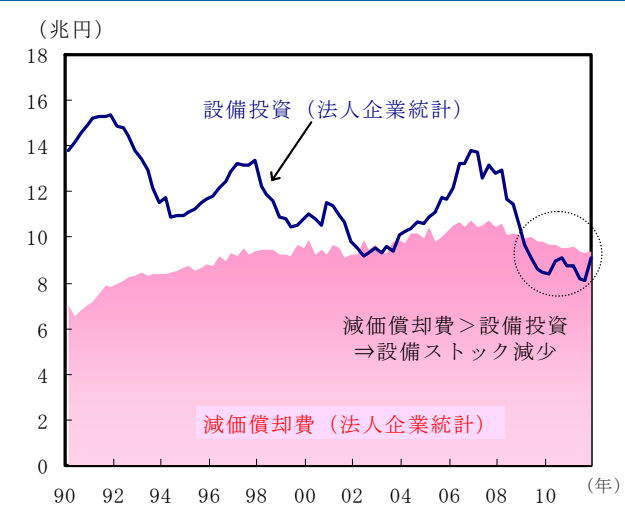
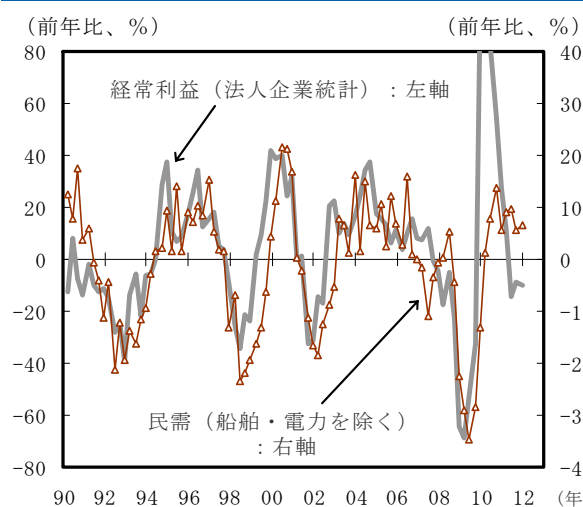
(注) 輸出金額の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省、日本銀行統計より大和総研作成

半導体製造装置の受注とBBレシオ 機械受注と生産 (建設機械)



(注) 設備投資の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、日本半導体製造装置協会、経済産業省統計、日本銀行統計より大和総研作成

企業収益と機械受注 (前年比) 設備投資と減価償却費 (季節調整値)



(注) 法人企業統計は、全規模・全産業 (金融・保険業を除く) ベース。減価償却費の季節調整は大和総研。
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成